

推進会議が
新たに立ち上がりました

安心システム推進会議市川

2020年11月に推進室が拠点市川を訪問させていただいてから、何回か話し合いの場を持たせていただきました。これまで市川地域福祉活動計画の中で「てこなカフェ」「オレンジカフェ」「子どもカフェ」などを行ってきたことから、安心システムへつなげるため、2021年7月に地域の人に関わっていくことを前提に、まずは職員の理解が先決と、推進室による安心システムの学習会を開きました。

同じ時期に虹の街バイブロックのアクティブシニアアンケート回答者対応の相談がきっかけとなり、下期に風の村と虹の街をコーディネートし、準備会を設置し、3月に安心システム推進会議市川が立ち上がりました。

現在、推進会議では安心システム市川の周知と、併設のカフェを使って何ができるかを話し合っています。



座長紹介

ほしの ゆい
星野 維（虹の街理事）

虹の街組合員活動のバイブロックエリアで、風の村の拠点である「きなりの街すわだ」で安心システムが立ち上がりました。地域のさまじまなつながりを広げ、これからの方向性やどのような活動をしていくかゆっくりと動いていきたいと思います。

2011年2月に生活クラブに加入、2ヶ月後の4月に当時船橋西支部で開催された榊原さんのまつり寿司企画に参加したのをきっかけに「子育て＝生活クラブ」の生活をして今に至ります。生活クラブの託児ケアシステム風船には、本当に本当に助けられました！



推進室に 新メンバーが加わりました



推進員 畑本順子

4月より推進室メンバーに加わりました。コミュニティデザイン事業での経験も生かし、「楽しい」を大切にしながら、人と人がつながり、安心してくらせる地域づくりをサポートしていきます。よろしくお願いします。



推進室事務局 北田美子

地域コーディネーターとして地域の色々な方と出会い、一緒に居場所づくりをしてきました。これから、さらにも多くの方々との出会い、学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。



2021年度 実践交流会報告



事例報告を中心にした交流会を開催しました。2回で 105 名の参加がありました。

“具体的につながる回路”は、地域にたくさんあります。

第 1 回

12/20

オンラインで地域づくり

コロナ禍でも奮闘し、オンラインという新しいツールを使い地域活動を続ける、2拠点の課題や工夫などの報告がありました。

安心システム 八街

子育て世代に向けてオンライン学習会やお話会を開催しました。子どもが寝た後などに SNS で質問や交流ができるようにするなどの工夫がありました。



▶会場とオンライン併用でお話会を開催。

安心システム いなげ

試行錯誤を繰り返し、アンチエイジング料理教室をオンラインで開催しました。新しいオンラインというツールを手に入れ、新しい形の地域づくりができあがりました。



▶料理教室の様子。画面越しに質問もできます。

第 2 回

3/18

地域で広げる子ども支援

地域の方主体の地域づくりを行う2拠点の報告がありました。また、街の縁側から就労継続支援 B 型事業所の活動についての報告がありました。

安心システム 流山

子ども食堂、フードパントリー、居場所型地域学習会などの幅広い活動を地域の方の力でつくりあげてきた報告がありました。



▶居場所型地域学習会の様子。

街の縁側 清水

障がいがあってもなくても、「共に働く」ことを念頭に行ってきた事業・活動をもとに、障害者就労支援事業として新たにスタートしました。



▶無農薬野菜の収穫をする利用者。

安心システム 柏

算数が苦手なお子さんや、学校にいけないお子さんが参加できる無料算数教室“単元王”を開催しました。引退した教員や地域の方の協力で実現しました。



▶間隔をあけて密を避けての開催。

街の縁側 C's コミュニティ

「断る理由がない」誰もが地域にとって必要な人であることが実感できる地域社会になることを目指して、できることを「足し算」しながら個性に適した仕事の創出を行っています。



▶C's カフェで提供しているクランブルケーキに入れるリンゴの甘煮づくり。

最後に、生活クラブ千葉グループ共同代表池田徹から社会福祉法改正による新たな事業についてのお話がありました。



池田 徹氏

「重層的支援体制整備事業」について ～だれひとり落ちこぼれないように～

地域共生社会の実現に向けて「重層的支援体制整備事業」というものが重要な取り組みとして始まっている。重層的の体制整備事業と言うのはすべての地域住民を対象とする包括的支援整備を行う事業。福祉分野がこれまで高齢・障害・子ども、生活困窮というような縦割りで施策が作られ、財源もそれに分かれていたが、財源も含めすべてを包括する形で各事業が重なり合いながら、新しい地域づくりの施策を実施していこうというもの。この施策の最大の狙いは地域づくりであることからわかるように、福祉分野だけではできない。相談・参加支援・地域づくりを柱に、様々な人たちと包括的な地域づくりに取り組んでいかないとはいけない。

推進室が始動してから今年は3年目になります。コロナ禍でも安心システムの拠点は増え、支援に力が入ります。本年度もよろしくお願いします

2021 年度の活動

コロナ感染の影響を受け、拠点の安心システムが予定していた取り組みや企画は思うように実践できませんでした。このような状況の中でも、安心システムやコミュニティデザインの学習、ガイドライン・相談シート・お手伝い&推進サポーター登録シートの周知を進め、相談体制の充実をはかり、できることを共に考えてきました。恒例の実践交流会は地域別・テーマ別に「オンラインで地域づくり」と「子育て支援の広がり」として2回開催しました。特に、地域住民主体の取り

組みに力を入れる事を主として掲げ、推進会議などで、事例の共有をしてきました。取り組みの現場はもちろんですが、地域の方が参加する推進会議もあります。もう一つの視点として安心コーディネーターの配置があります。今年は改めて安心コーディネーターの定義と役割としての5項目を整理しました。生活クラブ千葉グループの人材やコーディネート力を生かし、今後の配置が進んでいく様、支援していきます。

拠点（10）	流山・柏・船橋・いなげ・作草部・さくら・八街・市川・なつつらぼ・なりた
--------	-------------------------------------

街の縁側（8）	スペースぴあ茂原（風の村） 街の縁側よって松葉町・街の縁側デポー木刈（虹の街） 街の縁側清水・街の縁側松葉町・街の縁側大津ヶ丘（ワーカーズコレクティブ） 多世代交流拠点おおなみなみ（NPO クラブ） 街の縁側 C's コミュニティ（C's コミュニティ）
---------	---

2022 年度の計画

- ・ 拠点の安心推進会議へ参加し、情報の共有を図り支援の方向を検討します。
- ・ 拠点成田となつつらぼの安心推進会議を立ち上げ支援します。
- ・ 様々な拠点の事例(地域住民主体の活動参画)を共有できるよう情報をまとめ、周知します。
- ・ 相談支援を通し効果的な運営を共に考えます。
- ・ 街の縁側の効果的な運営と主体の育成を支援します。
- ・ コミュニティデザインを終了した拠点に対し、具体的な活動と担い手づくりの集中支援に取り組みます。
- ・ 安心コーディネーター育成支援としての研修を提案します。
- ・ 社会参加の創出機会としてボランティア体験講座を計画します。
- ・ 安心システム・街の縁側通信を2回発行します。
- ・ 実践交流会は目的を明確にし、他の事業者による先進的な事例共有をワークショップ方式で開催します。



2022年1月23日 ヤングケアラー支援シンポジウム

～オンライン同時開催～

「介護があるから、学業も交友も…家族だから当たり前？」

会場参加
70名
オンライン参加
200名以上

【会場】スターツおおたかの森ホール 【主催】ケアラー支援ネットワーク協議会・一般社団法人日本ケアラー連盟

条例の目的は、すべてのケアラーが個人として尊重され、
健康で文化的な生活が行われなければならないこと

あびこ子ども食堂
田中玲子



最近、新聞やニュースで取り上げられることが多くなってきた**ヤングケアラー**。家族の介護や看病、家事や弟妹の世話などを担う若者のことを指します。自分しかいないからやってきたけれど、勉強する時間がない、登校や部活もままならない。友達と遊びに行きたいのに、と思いながらも、自分がそうだと気づかない、また気づいても SOS を出す先がわからない。そんな子ども・若者達に地域の大人がどう寄り添っていきけるのかを考えました。参加者もとても多かったのですが、アンケートとしてのコメントが12ページにわたりびっしりだった事にも驚きました。

「ヤングケアラーの実態」についてお話くださったのは、成蹊大学教授の渋谷智子さん（左写真）。家族で面倒を見るのが当たり前だった時代から、今は労働環境も家族の人数も変わっ



てきていて、ちょっとした変化でも家族だけで受け止めることが難しくなってきた、子どもにまで負担が強いられていること、何よりも子どもの人権を守ることを大人が考えなくてはいけないことを痛感しました。



全国で初めてのケアラー支援条例の成立に尽力された埼玉県議会議員の吉良英敏さん（左写真）。病気や障害の当事者ではなく、そのケアをする人を支援することに焦点を当てたところが画期的で、この問題

がまだ注目されていない2年前から支援の必要性に気づき、条例制定に向けて精力的に活動されてきた軌跡をお話いただきました。

続くパネルディスカッションでは、フードバンクや子ども食堂で、子どもや親と身近に接する活動を続けている高橋亮さん、加藤美佳里さん、陸川良子さんも加わり「子ども食堂から見える子どもたち、心の声にどう寄り添うか」について語られました。

子ども食堂の現場で、ヤングケアラーを具体的に支援しているということはあまりないかもしれませ

ん。でも、子どもが安心して過ごせる場所があることその事が支援になっている。気になる子どもを放っておかない、地域でできることはまず声をかけることというお話に、勇気づけられました。



……お知らせ……

C's コミュニティが、
街の縁側に登録しました



4月、千葉の地域活性化事業の報告会に参加してきました。用水路の治水広報に取り組む地域住民、地域の子どもの支援を応援する中間支援組織、不登校の居場所作りに取り組む大学生、子ども会から地域防災へ活動を広げる自治会など…with コロナであっても地域ではこんなに生き生きと元気な活動が繰り返されていると心強く刺激を受ける機会になりました。

